

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292600127		
法人名	医療法人社団 千葉医心会		
事業所名	グループホーム島田		
所在地	八千代市島田40-32		
自己評価作成日	1/18	評価結果市町村受理日	平成29年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	平成29年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域とのふれあいを大切にしながら家庭的で笑顔あふれる場所にしましょう」という理念を基に入居者様が安全で健康的で、ご自分の力で生き活きと生活が送れるように支援しております。散歩や体操、レク、歩け歩け運動、畑の世話、買い物、外出などを通して、日常生活の自立ができてご自分のしたいことが自由に出来るように支援しております。健康面では医療法人の特性を活かして、医師や訪問看護との医療連携を行い、状況に応じて適切な医療が提供できるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

八千代緑が丘駅からバスで15分程の閑静な場所に位置し、グループホーム専用に建てられた2階建てのホームで、内部は居室や共用部分とも余裕があり、明るく清潔感もあります。天候の許す限り散歩に出かけ、朝はDVDを見ながらの体操、夕方は内部の廊下を歩く「歩け歩け運動」、敷地内の菜園での活動、初詣、花見、餅つき等季節毎の行事の計画的な実施等、出来るだけ体を動かして身体機能の維持を図っています。出来るだけ自立を促す介護方針により、リハビリパンツから布パンツで済むようになった利用者もあり、費用の面でも家族から感謝されています。理事長が医師、施設長が看護師であることから、医療面での対応には安心感があり、希望があれば看取りまで行っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="checkbox"/> 1. 毎日ある <input type="checkbox"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3. たまにある <input type="checkbox"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2. 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> 3. たまに <input type="checkbox"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="checkbox"/> 1. 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2. 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3. あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="checkbox"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい場所に掲げいつでも確認が出来るようにしています。学習会、職員会議で理念は実現できるように話し合い、散歩や、地域の行事に参加し、笑顔で生活が出来るようにしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を大きな字で居間兼食堂に掲げる等して目に触れやすいようにしています。分かり易い理念なので、職員も覚えて日頃の介護の場で実践するように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者とともに毎日散歩に出掛けたり、地域の祭りへの参加や、地域のボランティア、中学生の体験学習など行っています。イベントを行い、地域の方にも参加して頂き、交流が出来るようにしています。	町内会の夏祭りには利用者の殆どが参加しています。体験学習は4人が2日間来ています。ボランティアの「赤ちゃん先生プロジェクト」で乳幼児と触れ合い、津軽三味線では近所の人も大勢やって来ます。理解ある町内会長のお陰もあり、地域との交流が進んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中でAEDが設置してあることや、認知症サポーター養成講座などが出来る事を周知しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設の現状の報告、相談員などの意見なども取り入れて職員の対応や地域交流や協体制作りなどについて意見交換をしています。施設でその時のトピックスなどの勉強会なども取り入れています。	外部から地域包括支援センターの他、介護相談員、民生委員、町内会長が参加して2ヶ月に1回定期的に開催しています。メンバーに恵まれ運営上参考になる多くの意見が寄せられています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との連携は電話やファックスで連絡をしています。入退去についても情報や現状報告をして協力を得ております。相談員、包括支援センターへも運営推進会議に参加して頂き情報交換を行いサービスに活かせるようにしています。	運営推進会議に地域包括支援センター及び介護相談員が出席してくれるので、ホームの実情もよく理解されており、気軽に相談できる親密な関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修の伝達講習、会議の中で拘束の害についての学習をし、拘束をしない工夫、コミュニケーションの活用について話し合っている。	各ユニットから玄関への出入りにはボタンを押す必要がありますが玄関は日中施錠せず、1階からは庭に自由に出る事が出来、ベランダで喫煙する利用者もあります。外部研修に職員を積極的参加させ、内容を他の職員に伝えさせています。	禁止の対象となる具体的な行為については、リストを職員に配布しているのですが、全員が十分理解しているとは言えないので、知らず知らず拘束しているという事の無いよう一層の周知徹底が望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会や、会議の中で学び職員との連携を取り利用者の尊厳を守るように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中にこの制度を利用している方がおります。ご相談があれば関係者と連携が取れるように支援しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、解約の時には必ず、説明をし、不安な事や意向など聞き、ご理解をして頂けるように努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱等でも健康面などをお知らせするようにして安心して頂き、ご意見に対しては職員と話し合い改善に取り組んでいる。	利用者については、介護相談員に2ヶ月に1回来て貰っています。家族については面会や運営推進会議などで訪れた際に意見・要望を聞き、ホームの運営に反映させるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は会議等でまとめて管理者会議等で話し合い、担当部署に通して運営に反映しています。	毎日のケアの現場や申し送りの時だけでなく、毎月行う職員会議で業務内容やケアプランについて話し合い、その場で出される意見を有効に活用するように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者の報告を受けて職場内環境、勤務状況を把握して給与や労働時間、働きやすい職場の整備に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学習会や、会議の中で学び職員間の連携を取り利用者の尊厳を守るように努めております。職員会議の中で事例を取り上げてケアの方向など情報交換を行って、よりよいケアが出来るようにしています。外部研修にも参加が出来るようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で話し合いに行ったり情報交換など行いサービスの向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、家族との初回面談、見学時にはご本人の思いや、心配、不安などに耳を傾け様子なども見させて頂き、ホールでお茶やお喋りする機会を作り雰囲気慣れて頂ける様にして頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階から、まずは施設の見学をして頂き、生活の様子や、雰囲気など直接感じて頂きそのうえで疑問や不安、希望などに耳を傾けてご理解が得れる様にして信頼を得られるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族への説明を十分行いながら、ご家族の思いや不安要望等気軽に話せるようにしている。生活面、健康面、経済面、状態に応じてのサービスの変更などについても相談に応じて安心できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の能力に応じて生活の中で出来る事を一緒に行ったり出来ないことは協力しながらいづれできるようになって頂くケアの関係を築きながら行っております。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には一緒に楽しい時間が過ごせるように環境を作ったり、一緒におしゃべりしたり、可能であればお散歩も一緒に他の方たちとともに言っていたり生活の共有が少しでも出来るようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望の時には自由に外泊や外出が出来、家での生活を大事にして今まで通っていたスーパーなどに買い物に行ったりしている。	訪問客にはお茶を入れる等して、家族や知人等馴染みの人が来訪しやすい雰囲気を作っており、今回実施した家族アンケートでも回答者全員が行き易いと答えています。家族が墓参りやお食事などに連れ出し外泊も自由に行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を把握してレクなどで共同して出来るカレンダー作りやお散歩などで一緒に並んで歩いたり、車いすを押して頂いたり支えたり支えられたりの支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の時には必ず何かありましたら連絡をして頂けるように説明し、入院時は面会に行ったりの関係を築けるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、面会時、ケアプラン作成時、更新時には必ず意向を聞いて、話し合い、ご本人が訴えられない場合には生活の中や、生活歴を考えながら、思いに添えるようにしています。	利用者本人が言葉で意思を伝えられなくても、いつも付き添っている介護者には思いは感じとれます。入所時の面談の中で生活歴や特徴を聞き取っていますが、その後日常の状況観察をして、会議の中で本人本位のケアの検討をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の生活歴、趣味、特技、好きなものなど生活の中で聞いたり、汲み取ったりしてスタッフの間で共有し生活に取り入れたりしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中は一人一人の出来る役割が無理なく出来るように持っている力が生活の中で発揮できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族やスタッフや関係者から日々の健康面、生活面、事故のリスクなどの情報を職員会議で担当者がケースの紹介をして課題とケアについて話し合い介護計画に反映している。	利用者個人の課題は何かを見極めるために月1回の定例会議で意見交換をし課題の共通理解を図っています。状態に変化があればその都度ケアの見直しを行っていますが、通常は6か月に1回モニタリングを行い計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員はその日の個々の生活の様子、状態をケースきろくに記録し情報を共有し、実践、計画の見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医の往診、週1回の訪問看護など協力医療機関など活用し支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの受け入れ、介護相談員の受け入れを行い散歩、個別の買い物、外出など本人の希望が実現できるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医院の定期的訪問や受診、必要な時にはご家族と一緒に受診し対応を相談したり、協力医療機関との連携を常に支援しています。	運営法人の理事長である内科医が月2回訪ずれ診療する他二胡演奏で音楽療法をする事もあります。訪問看護ステーションから週1回看護師が訪問し医療面では手厚く守られています。歯科受診の必要が生じたときは職員が同行受診しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している訪問看護と情報交換を行い状況に応じて適切な処置が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と話し合い安心して入院生活ができるようになじみの職員などが頻回に面会に行き、知らない環境でも治療がスムーズに受けられて早期に退院が出来るようにしています。入院中の経過についてはご家族が説明を受ける時に同行をして状態の把握をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の時に本人、家族に状態が変化したときの対応や方針をお聞きしています。状態の変化に応じてその都度説明し意向など話し合い対応をしています。希望があればターミナルケアも受け入れています。	病院関連の施設であることもあり入所時に「延命処置等に関する要望書」を取り交わしています。状態の変化によりその都度家族に説明し時には医師を交えて話し合いの場をもっています。希望があればターミナルケアも受け入れています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療法人のメリットを生かすすぐに医師や医療連携が利用できる体制になっています。職員には学習会で学習が出来るようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時や非常時についてや、学習会など開催しています。	年2回避難訓練を行っており、夜勤者も火災発生時に取るべき行動について、ほぼ理解しています。法令に則りスプリンクラー等の設備は整えており、災害に備え3日分程度の飲食物を備蓄しています。	訓練に消防署にも立ち会って貰えるよう早めに依頼する事、地域との協力関係の構築、備蓄品の内容及び数量の見直し、が今後の課題です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護や尊厳の保持、認知症についての研修を行い理解を深め、適切な対応が出来る、安心して快適な生活が出来るように心がけています。	どのようにケアすれば利用者の尊厳保持になるのか具体的な行動の上で理解するように研修を重ねています。認知症についても利用者の観察を通して研修を行い、利用者の安心快適な生活ができるように常に心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の状態を見ながら、生活の中で自己表現が自由に出来る環境を作り、希望や思いが実現出来るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本人の意向が生活に反映されて、居心地の良い生活が本人のペースで送れるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい洋服など本人に選んでいたり、出来る方にはお化粧をしたり、アクセサリーを付けておしゃれをして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好き嫌いを把握し、噛む力、嚥下状態に応じて個別に対応をしています。一緒に準備をしたり片づけも行っています。	当ホームの菜園で取れたホウレンソウが食卓に上り話が弾みます。利用者個々に合わせた食形態で提供され、好き嫌いまで把握されていて、準備や片付け、食事も職員と利用者と一緒に、笑い声の絶えない時間です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分の摂取量のチェックをして、栄養、水分が不足しない様に支援をしています。食事の時間以外にも、10時、15時に提供できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に洗面台に行き、歯磨きや入れ歯の洗浄を行い口腔内の清潔を保持しています。虫歯、入れ歯のトラブルは出来るだけ歯科受診をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は殆どの方がトイレで排泄が出来るように支援をしています。排泄チェック表などで排泄の状況を把握して、夜間も誘導が出来るようにしています。	トイレの自立には立位が保てなくてはならないので、よく散歩に出かけるだけでなく廊下での歩行タイムを日課に組み込んでいます。排泄チェック表でトイレ誘導し、日中は布のパンツとパッドで過ごせるようになっていて、オムツの利用者がありません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量、散歩、歩け歩け運動、体操など体を動かしたりして便秘の予防に取り組んでいます。必要な場合は医師や看護師に相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日3人ほど、本人のペースで入浴が楽しめるようにプライバシーを保持し、希望に応じてお湯の温度の調整をしたりしています。入浴剤を入れて気分転換、保湿が出来るようにしています。季節の菖蒲湯、ゆず湯で雰囲気を提供しています。	週2回は全員が入浴出来る様、毎日午後3人ほど入浴支援しています。湯船には入浴剤を入れたり柚子湯やしょうぶ湯など季節を楽しむものを入れ利用者を喜ばせています。湯温は希望に応じて調整しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調を把握し本人の状況に合わせて休んでいただいたり、日中は活動、夜は十分な睡眠が出来るようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病歴を把握し、処方内容がわかるようにファイルしていつでも見れるようにしています。誤薬防止の為、配薬前にWチェック、内服の時にはご本人確認と、飲み終わるまで側を離れない様に見守っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴、趣味、得意なこと、好きなことが出来る様生活の中で毎日日課として継続出来るように支援しています。歌や、散歩、レクなどで気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて散歩や買い物、時計の修理、眼鏡の修理などに一緒に行き支援しています。野菜の種や苗木、肥料などの買い物も支援しています。	毎日の散歩で日光浴もでき外の空気も吸っています。車いすは足のしっかりしている利用者も押し仲間意識を強めています。様々な買い物に職員が付き添って行き、初詣、花見、本部の祭りや地区の夏祭りなどにも出かけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る人は家族と相談して、自己管理をして頂き、買い物に行き、ご自分で必要なものを選んで、買い物を楽しんで頂けるように支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	食堂にいつでもかけられる電話があり職員が取次など対応しています。ご自分で携帯電話を持っていて自由に電話がかける事が出来ます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な清掃と換気を行い、清潔で居心地の良い環境を保つように心がけております。毎月のカレンダー作りを職員と一緒にを行い、季節感を感じられるように工夫をしている。	階段部分や居間兼食堂は決して広くはありませんが、食堂に隣接して和室もあるので、思い思いに寛ぐには十分です。雛飾りがあつたり、利用者の塗り絵を掲示したりして季節が感じられ、調理の音や匂いで生活感もあります。加湿器とぬれタオルで乾燥を防ぎ、トイレは常時換気扇を回す等室内環境にも十分配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者同士が話せるように、席を配慮しています。くつろげるようにソファも置いて、リラックスできるように工夫もしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談し、なじみのある家具や思い出のあるものを置いて安心し落ち着いて過ごせるように工夫しています。	居室は、空調機、クローゼット、洗面台が備え付けです。内部から施錠が可能でプライバシーにも配慮されています。利用者はそれぞれの馴染みの家具等を持ち込み、自由に室内を飾り付けていて、自分だけの城との雰囲気があります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人の出来る事、出来る力を把握して最初から手を出さず時間がかかっても自分で出来るように見守り、自分の事が自分で出来る喜びをしています。失敗しても自尊心を傷つけず受け入れ混乱や安全に配慮しています。		